

(別紙4) 平成 23 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272000112		
法人名	(株)ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・美都①		
所在地	益田市美都町山本イ2-3		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouniyod.jp/kaigosip/information/ubffc.do?SCD=3272000112&amp;SCD=370&amp;PCD=32">http://www.kaigokouniyod.jp/kaigosip/information/ubffc.do?SCD=3272000112&amp;SCD=370&amp;PCD=32</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成23年10月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と何でも話し合える関係を築き、その人らしく生活できるように、また、一緒に生活する仲間として笑顔絶やさず、安全に、健康に、ゆったりとした一日を過ごすことができるよう支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のこれまでの暮らし方や、その人らしい生活を大切にしている。さらに、その人にあった、今、ここで、できることを見つけ、役割のある生活を利用者と共に考えて支援している。理念にある「やすらぎと喜びのある暮らし」を支援するために、管理者は職員に意識して理念について話し、職員も常に理念に沿った支援に努めている。定期的に便りや広報誌を発行し、家族や地域の方から理解を得ている。隣家の[美都の家]を憩いの場として利用し、利用者が気分転換をしながらゆったりと過ごせるように工夫している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内で検討を重ねた共通の理念があり、月に一度は理念に基づいたケアを行っているかの振り返りをしている。	職員は毎月自己評価を行い、互いに理念に基づいたケアをしているか振り返っている。管理者はスタッフの自覚を促すよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の環境整備、地域で催される行事への参加や、小学生がボランティアに来てくれたりなど、相互に交流を図っている。	地域の祭りなどの行事に参加したり地域版の便りを回覧し交流をしている。地域版の便りでは、利用者が携帯電話を使用している様子など生活ぶりを伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で貢献できる事を問いかけてたり、日常的な付き合いの中で、認知症の理解を深めていただくため相談援助等を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況や取り組み、家族アンケート結果、ヒヤリハット事例などを報告し、それをもとに意見交換をしている。意見や要望は職員間で話し合い、ケアに活かすとともに次回の会議で報告をしている。	救急対応のマニュアルをノートからシート式にしたら見やすいとの提案を受け、準備を進めている。会議報告はファイルで玄関に置きいつでも見られるようにしている。家族参加が少ない。	家族が参加しやすい工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例など、現状を理解していただくための相談や連絡、成年後見制度に関する相談などをし、助言をいただいている。	成年後見制度を利用する事例があり担当者との相談を行った。手続きを進める中で地域包括支援センターともよい連携がとれた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングや職員会議などの折に、帰宅願望のある方への対応やその場そのときに、心に寄り添うことの重要性などを確認しあっている。又、日々の行動に注意を払い玄関の施錠も含めて身体拘束のないケアを心がけている。	外部研修の情報を共有している。二階ユニットは安全の為ベランダ以外は施錠しているが、隣家を借りて利用者にストレスを感じさせない努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに基づいて、虐待に関する勉強会を開催したり、年2回虐待防止に関する自己チェックをして、自らの言動を振り返り、高齢者介護に携わる者が容易に起こしやすい虐待についても理解をするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する内外の研修で管理者・職員ともに学びを深め、地域包括支援センターとの連携も図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に利用料金、終末期や重度化への対応、契約解除などについて、十分に説明し理解を得ている。改定の場合はその都度ご家族へ文書で説明し、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族アンケート、家族会での話し合い、面会時やケアプラン作成時などに、意見や要望をくみ取り、職員間で話し合いケアに活かしている。	年一回アンケートを実施し家族の意見を聞いている。面会時に情報交換を行い、もらった意見に対し返事を返している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や勉強会、ミーティング等で意見交換をしている。月1回のホーム長会議に本社の上司も出席し、スタッフの意見・提案を伝えている。	管理者は、日常的に職員の意見を聞き運営に反映させている。その日に一番にする支援をホワイトボードに書く、という提案を取り入れ、情報の伝達に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はホーム長会議の場や、折に触れて職員の状況・要望等を運営者に伝え、働きやすい職場環境となるよう協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には可能な限り多くの職員が参加できるよう計らい、伝達講習や研修報告書の提出、意見交換などを行っている。また、全職員が参加できるよう調整し、月2回程度の内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の圏域のグループホーム連絡会での情報交換や、年2回開催されるテーマを設けての全職員を対象とした交流研修に参加し、その内容をホームに持ち帰り、質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の心身の状態、暮らしに関する思いや願いなどを把握し、体験入居をしていただく中で、ご本人の気持ちを受け止めるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問や、ホームの見学、電話相談などを通して、そのご家族なりの思いに耳を傾け、負担感などが軽減され、より良い関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階ではご家族の面会を密にしてもらい、不安感が少しでも軽減でき、徐々になじんでいただけるよう協力を得ている。緊急性のある場合や他施設が適切と判断すれば、ケアマネジャーと相談を重ね対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する仲間としての対応を心がけ、調理その他の家事や畑仕事など得意分野で力を引き出せるような働きかけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話連絡、毎月のお便りなどで日々の様子や変化を伝え、側面からの協力が得られるような関係作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理美容院へ行ったり、近所の商店での買い物や地域行事への参加など、新たな馴染みの関係作りも含めて、継続的な交流ができるよう努めている。	二階ユニットでは自宅近所の人に会いに行くなど、馴染みの関係を大事にしている。一階ユニットは近所の商店や理・美容院に行き、新たな関係作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を理解し、食事の席や外出時のメンバー構成を考えたり、身体を使って遊ぶ中で自然なふれあいができるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思いや願いを聞いている。訴える事が困難な方は職員間の情報交換を密に行い、本人本位を心がけている。	本人の話をよく聞き、伝達ノートで情報の共有に努めている。言葉で表現出来ない利用者には時間をかけて思いを聞いている。家族や近所の方からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時、ケアプラン作成時、家族会などの機会に積極的に情報収集し、日々のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日その時の心身状態についてミーティングを行い、有する力等を常に見極めつつ、本人の意思を尊重して支援できるように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度アセスメント、モニタリングを細かく行い、本人の意向の聞き取り(推測も含めて)を基に、家族同席で介護計画を作成している。	家族も参加し介護計画を作成している。手紙を書けなくなった利用者に家族からメッセージをもらうなど、支援内容は具体的に立ててあり利用者も喜んでいる。毎月全職員で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の研修を行い、日々の記録を振り返りながら、学びを深め、また、申し送りノート、ホワイトボード等の活用で情報がうまく伝達できるように工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院時の対応、家族の希望による宿泊や自宅への外出の送迎など、必要に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署が近くにあり、折に触れて指導をいただいている。地域の理美容院や商店も利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人のかかりつけ医を基本に、遠方の場合は家族の同意を得て往診が可能でなければ家族同行で、無理な場合は速やかに受診の状況を報告している。	かかりつけ医には、職員が同行して受診支援し、内容は家族に報告している。夜間など急変時は往診医に依頼している。スムーズに入院できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろから健康管理や状態変化に気を配り、必要と判断すれば職場内の看護職員と連携し、早期に医療機関への受診をすすめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と情報交換をしたり、面会にも極力行くようにしている。また、入院が長期にならないよう可能な限り早期に退院できるよう医療機関と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、早い段階から家族の意向を聞き、かかりつけ医との連携のもとに、その時々状況に応じて家族と相談しながら対応をしている。	看取りについて入居時に対応できることを家族に伝えてある。状況に応じ、管理者はかかりつけ医、家族、職員と十分に話し合いできる体制づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一度全職員が救命講習を受講している。夜間急変時もマニュアルをそばに置き、冷静に対応できるよう日ごろから心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方や消防署の協力のもとで、年に2度利用者とともに総合訓練を行っている。そのつど反省会を行い、改善点を話し合っている。	土砂災害の警戒区域で、地域の方と共に訓練をしている。訓練後、利用者から、もっと大きな声を出す、階段を降りる時は安全な履物にする、などの助言を受けた。	夜中は暗く階段が見えにくいので、安全に移動できる方法を検討して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、本人の気持ちを大切に考え、目立たないようにさりげない声かけを心がけている。	利用者の尊厳や言葉づかいに気をつけている。管理者は職員の言動が気になる時はその都度、職員の気づきを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて、希望や思いを引き出せるよう声かけの工夫をしたり、意思表示ができない方にはジャスチャーや筆談などを活用し自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人のペースや、希望に沿って生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には本人の意志で決めてもらっている。できない場合はその方の個性・願望・生活歴などに合わせて、その人らしい身だしなみができるようさりげない援助を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳を、それぞれができる場所でできる事をし、職員と一緒にテーブルを囲み、食事を楽しむことができるよう支援している。時には野菜を収穫しメニューの相談をして調理にかかることもある。	食事づくりや盛り付けなど利用者が出来ることを一緒に行っている。二階ユニットでは昼食の食材の買い物と一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に一度栄養士による栄養指導を受けている。食事量や水分摂取量も記録し、一人ひとりの好みや食べやすさを考慮し、粗刻みにしたり、食器や箸、スプーンなどにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや見守り・全介助など利用者個々の状態に合わせて支援をし、習慣となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムの観察、把握をし自尊心に配慮して介助している。個々の状態に応じてパット・紙パンツなどの使用も考慮しながら支援している。職員間の情報も細かく共有し対応している。	排泄パターンを把握し、どこまでできるか常に見極め自立支援している。夜間は居室のドアの音に気を配り支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方は特に朝食後のトイレ誘導を心がけ、運動・水分摂取・繊維質の多い食事・起床時の冷水や牛乳・ヨーグルトなど個々の状態に合わせて工夫し、下剤等の使用は最小限にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	極力本人の希望に沿えるようにしている。入浴を好まれない方には無理強いをせず、声かけの工夫や、対応の方法を考えたり、できるだけ心地よく入浴できるよう配慮している。	毎日入浴する習慣のない利用者にはシャワーを利用したり、声かけは手紙に書いて他の利用者にわからないようにするなど、工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、特に午前中の活動を促し生活リズムを整え、夕方からの混乱や不安感を緩和し穏やかに入眠出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを使用し、職員が内容を把握している、色分けなど誤薬を防ぐための取り決めがあり、変更がある場合はホワイトボードを使用し情報の伝達をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや畑仕事・裁縫、日常の細々とした家事のできるところで力を発揮してもらい、散歩やひなたぼっこ、ドライブ・外での遊びなど気分転換をし、少しでも楽しみのある生活ができるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の欲しいものがあれば、近所の商店へ買い物に出かけたり、自宅への外出・外泊、お弁当持参の遠出や、また長距離移動の困難な方は、車椅子での散歩など戸外へ出かける支援をしている。	利用者の希望に沿って自宅に帰ったり買い物などの支援をしている。外出を嫌がる利用者には花摘みに誘い戸外に出かけている。	外出届の記載事項が多いので検討を望みたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もある。できない方は希望に応じて使うことができるよう、家族と相談の上で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	充電の確認や簡単に操作ができるような支援をすることで、携帯電話でご家族と連絡を取り合う方がおられるが、認知症の進行に伴い、電話での会話は困難な方が殆どである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を心がけ、テレビの音量や遮光に気を配り、不快な臭気などがこもらず、心地よく過ごせるよう配慮している。季節感のある花を生ける等の工夫をしている。	季節の感じられる花が生けられ自由に過ごせるソファーが設置してある。二階ユニットは[美都の家]をカラオケや読書などが楽しめるよう、くつろぎの場として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にもソファーや縁台を置き自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を置き、家族からの写真や手紙を貼るなど、自分の居場所として心地よく過ごせるよう配慮している。	小物入れなど馴染みの物や使いなれた家具を持ち込み、家族の写真を貼るなど、本人が居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗の場面を見逃さず、些細なことでもミーティングやスタッフ会議で話し合い、安全に、安心して生活できるよう工夫している。		